

寺報

令和4年(2022)春彼岸会第147号(1)

発行 福島市田沢字寺前18
長秀院・仲興寺

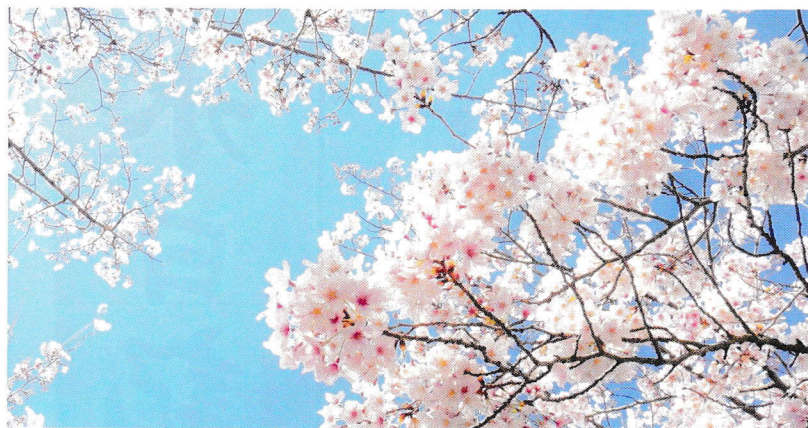
TEL 024(548)1240

FAX 同上

ホームページ <http://www.choshuin.jp/>

e-mail info@choshuin.jp/

編集責任 渡辺 祥文



パンデミック三年目を迎えた新型コロナウイルス感染症の収束・終息を切に希うものです。また平成二十三年の三月十一日東日本大震災・原発事故の苦しみは何にたとえることもできませんが、十一年となりました。コロナ禍ですが心を一つにして、感染拡大を防ぐべく共に進んでまいりたいと切に願うものです。

令和四年三月

田澤山長秀院
清水山仲興寺

代表役員 渡辺 祥文

並 総代世話人一同

—花まつり—

釈尊降誕会

四月八日はお釈迦様のお誕生日です。ご誕生のおり天から花びらと甘露の水が降りそそいだ故事と、お釈迦様をまつる御堂に花をかざることから花まつりと呼ばれます。かわいらしいお釈迦様に甘茶をそそぎ、そのご誕生をお祝いいたします。

苦しいときも、嬉しいときも、生きていく有難さを忘れず大切に歩むことを誓うことが大きな願いです。

大震災から十二年目となります。人と人との絆を大切にして、皆ではげまし合いながら一歩一歩進んでまいりましょう。

東日本大震災・原発事故より十一年が過ぎました。殉難精霊のご冥福を念じ上げ、復旧復興が進展することを念じ上げます

案内板

四ページ記載の通り、今年も各種行事・集会等を取り止め、中止と致します。人類未知のウイルスの出現以来、三年目となりました。新たなオミクロン株が出現し、また感染拡大しました。ようやく三回目のワクチン接種が行なわれていきます。

短気をおこさず拡がったウイルスを封じ込めなければなりません。頑張ります。

春彼岸会

山主拝

雲水日記

その五

渡辺 秀憲

東京は桜の蕾がふくらみ、春が近づいてきました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

前回は旦過寮^{たんがりよう}という、修行僧が一番最初に配属される部署について触れました。今回もその旦過寮で過ごした日々のうち、慣れない永平寺での坐禅行について記したいと思います。

前回触れたとおり、起床は朝三時半。新入りの修行僧は、指導役の客行和尚^{かきょうおしょう}に急かされながら、朝の坐禅に赴きます。

朝の坐禅とは言うものの三月の日の出前、窓の外はまだ真っ暗。その年は記録的な大雪で、外には積雪が壁のようにそびえたっています。坐禅を行ずる僧堂^{そうどう}には、ストーブこそあっても現在建築のよ

うな気密性は皆無。気温は零度近く、吐く息は白く手はかじかみました。

前もって教えられた作法を思い出し、ちらちらとなりの修行僧の動きを盗み見つつ、形だけはそれらしく坐ります^{すま}。曹洞宗の坐禅は「面壁^{めんぺき}」すなわち壁を向いて坐禅をします。修行僧は壁に沿って並んで坐り、その後ろを三年目以上の古参の修行僧が巡回します。巡回する修行僧は警策^{きやうさく}という長い棒を持ち、もし寝ている修行僧がいれば、励ましの心を込めてその肩を打つのです。

警策の先端は靴ベラのように平たくなっており、打たれても意外に痛みは軽いものです。肩の肉を打つ衝撃と、いっそ小気味よい音で心地よく意識が覚醒する

のですが、

新入りにと

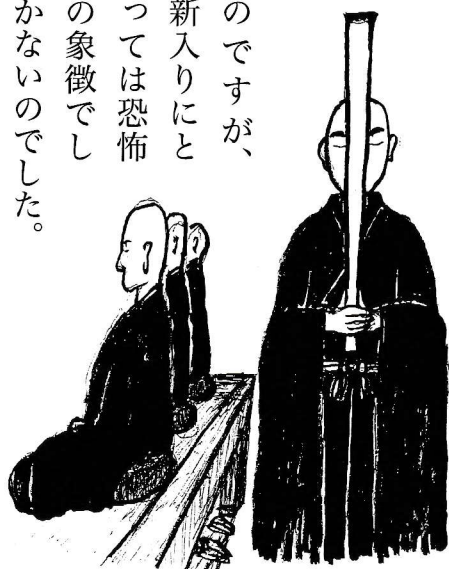
つては恐怖

の象徴でし

かないのでした。

寝てはいけないと分かっている、三時半に起きる習慣など身につけておらず、まだ寝たい脳みそは瞼を押し下げようとします。その強烈な睡魔の前には、起きていようという意思も、見られているといふ緊張感も、手や足の感覚を失わせる寒ささえも用をなしません。ついに船を漕ぎ出した私の肩に、見守っていた客行和尚の警策が伸びるのでした。

ちなみに新入りと呼ばれなくなるころには警策を打たれなくなるのかというと、そんなことはなく……。しばしば睡魔に敗北する修行僧を応援するため、今日も今日とて警策の快音が僧堂に響き渡るのです。



「ウイズコロナ」ということ (三)

オミクロン株の第六波

「第六波の大波は来るのか？」と、前号の小見出しに書いたが（実際に入稿したのは令和三年十二月十日前後）、一月～三月上旬の罹患患者数は全国でとんでもない人数となった。オミクロン株恐るべしである。

子供たちや若者に顕著に拡がった。これまでに第五波とは違うものである。まるで「ここがねらい目だ！」とウイルスが考えているようであった。学校閉鎖、学級閉鎖が重なり、若い保護者の方々も家庭内感染、また濃厚接触者となり、職場に出れなくなった。クラスターも連続して発生、あちこちから悲鳴があがっている。

「方丈さん、私たち夫婦二人のじいちゃん、ばあちゃん、他の人と接触しないが、感染しねんだよね。孫や若い人たちと一緒にいたらこんな呑気なこと、やってられねえベナイ。」老夫婦二人で暮らしていると、自分の感染を防ぐように暮らしているだけで充分安全だというのであるが、確かにその通りであると思う。

良いも悪いもなく、若い年齢層に爆発的に拡がる第六波となり、今も（三月十日現在）

なかなか動けない状態が続いている。

ウイズコロナの毎日

かわったこと、かわらぬこと

私自身も、この二年間、すべて翻弄されている。寺院でクラスターを出さないようにと必死である。お寺においてになって供養されることは、全くかわっていない。ただ大人数でなく家族を中心の少人数になった。葬儀も形態が確かにかわったが、参列しない訳ではなく、お参りして直ちに帰るようになった。それでも、住職自身は同じようにおつとめしている。

その一方で劇的にかわったこともある。集会・会議が遠方のは、「オンライン」になった。パソコン上での会議であり、講習会であり、連絡である。若い世代は、完全に順応している。緊張したり、困ったりしているのは、高齢世代であり、私自身である。

約一年前から、どんどん切り変わってきた。出来ませんとか、わかりませんとか言っている場合ではなく、そうなってしまった。接触せずにやるのが大事になったのだから仕方がない。パンデミックは世界の動きを変えた

のだと思う。

今年六十六歳となる自分は、どれだけついでいけるのかと思うことがある。趣味ではなく、仕事としてやっていくことは、今の時代についていくことだからこれも仕方のないことである。「やつぱり、顔を合わせて話さないとダメだ！」などと力んでも、時代は違うと思い知らされる。六十年程前、明治二十八年生まれの祖母が電気炊飯器（電気釜）を前に困った顔をしていたのを思い出す。

油断大敵、頑張りましょう！

オミクロン株に罹患した後輩住職から電話があつた。

「高い熱が出て、のどの痛みがひどかったですヨ。四日間まいりましたネ。家族もやられてね。目もあてられない状態でした。先輩、気をつけて！」

第六波は、いままでで最も感染力が強いと本当に実感している。東北の感染状況が切実に物語っている。幸い重篤化に至ることが少ないのが、救いである。

第三回目のワクチン接種も進んでいるが、油断大敵である。若い人たちは大丈夫であろうが、高齢者は甘くはないのだ。「うつらないように、うつさないように」なかなか顔を合わせられないのでたいへんですが、頑張りましょう！

三月・四月行事のお知らせ

三月十日現在、新型コロナウイルス感染症オミクロン株は感染拡大のまま「高止り」状態です。

安全に考慮し集会・会議等を自粛いたします。三月～四月は「感染の波を防ぐ山場」日本中の人が卒業・入学で動くときです。

長秀院・仲興寺も三月～四月の行事等全てを中止いたします。

各種総会等もありますが、昨年度にならない、全て中止いたします。

尚、五月以降は感染状況を見て今後どのようにするかを決定してまいります。



内献ないけん（最低人数による行事執行）となる行事

長秀院

● 三月二十八日

- ・ 大般若祈禱会・総供養
- ・ 大聖不動明王尊例大祭
- ・ 花まつり（釈尊降誕会）
- ・ 護持会総会

仲興寺

● 三月十八日

- ・ 春彼岸会供養
- ・ 念仏講「春念仏供養」
- ・ 護持会総会、念仏講総会

● 四月十七日

- ・ 貝沼出世観音例大祭

● 四月十八日

- （旧三月十八日）

● 梅花流御詠歌定例会

- ・ 聖観音例大祭
- ・ 清水町観音講中

● 写経会等（三月・四月）

● 梅花流御詠歌定例会

※行事として少人数でつとめます。

安全を第一として、無理はいたしません。

その他の行事

● 福島市仏教会主催

『花まつり』講演会

四月四日（少人数開催）

● 曹洞宗

例年五月下旬開催

全国梅花流奉詠大会
（令和三年中止決定）



※長秀院・仲興寺行事については三月、四月の例大祭が多くありますので、そちらは予定当日に住職等で内献のおつとめをいたします。

※一昨年、昨年続きこのような発表をすることはとても心苦しいのですが、高齢者の方々がおいでになる寺院は本当に危機意識をもって事にあたらねばなりませんので、日本中の人々が移動するこの二ヶ月間は「集まるイベント・会議・行事」は、中止とさせていただきます。

何卒ご賢察の上、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

ロシアのウクライナ侵攻について

曹洞宗総長談話として

平和を訴える

二十一世紀に入り、このようなことが起こるのかと驚き、只々暗い気持ちになった。ロシアのウクライナ侵攻はどう考えても暴挙であり、異常である。三月十日現在どんな悲惨な状況となっている。

外交努力によって国と国が交渉するのがあたりまえのことである。二十世紀は領土や設備の「ブン獲りあい」に終始し戦争の世紀であった。地続きの国は常に何千年と国が出来るともめている。結着は殺し合いである。そして、いつも殺し合いをやらされるのは若者たちである。

人間も動物なので縄張り意識が本能としてある。拡大すれば国家意識となり、人類はそれ以上には未だ進化していない。「地球市民」という意識まで進化すれば殺し合いをやめるのだろうか、未だに続けている。

しかし、これほど露骨なものがあるうか。「軍事力が強いものが、全てを決めるぞ！」

従え！従わなければ力づくで従わせる」と行動に出たのだろうか、本当にどうかしている。

第三次世界大戦にならないようにと慎重に世界中が接しているが、支配されるのはイヤだといっている国を見殺しにしている。ウクライナ国民の現在状況に本当に胸が痛む。未だパンデミックも収まらないのである。

曹洞宗は、この状況において三月一日付で「総長談話」として即時の平和的解決を願うとして公式に全世界へ向けて発表した。現在、ヨーロッパも北米・南米にも支部設置し各国に寺院が存在する宗門であるので特に意味が大きい。

内容を掲示してあるので、よく読んで頂きたい。SDGsが世界の標準になりつつある現在、誰一人取り残さない世界を目指していくしか人類は生き残れない状況が近づいている。二〇三〇年までにいろいろなことを頑張らないと、人類生存の危機となる。戦争は最大の害悪である。無意味に人

を殺し全てを破壊する。

ウクライナとは、東日本大震災・原発事故以来、福島県はチェルノブイリ事故の教訓を学ぶ意味と連帯の意味で大きな交流がある。福島大学における交流も深い。テレビ画面上の逃げまどい、泣きながら歩く母子の姿に、涙を禁じ得ない。また、この暴力と一方的な侵攻が許しがたい。

独裁国家の悪は、国民が不戦デモを行うと直ちに拘束することである。民主国家はどのような主張でもルールを守れば一人一人の考えを表明できる。暴力的な行動がなければ拘束されることはない。

近隣国家は常に領土でもめるし、今後もそれはあろう。近くは二百年前のクリミア戦争、百年前の帝国ロシアからソビエト連邦へ、東西冷戦、ペレストロイカ、ソ連邦の崩壊、旧ワルシャワ条約機構とNATOの軍事対立、ウクライナの政治的方向性、ロシアの旧連邦へのこだわりと危機感等、一口ではいえない問題がある。一口でいえないが、一口でいうと、旧番長から、逃げようとしていたら、いきなり殴られたようなものだが、今、殴って言うこと聞けは通らないのだ。即時平和をただただ祈る。また、在日のロシアの人々への加害、差別もあつてはならない。

(住職拝記)

令和4年3月1日

ロシア連邦のウクライナ侵攻について(談話)

ロシア連邦がウクライナに対する「全面的な侵攻」に踏み切りました。軍事施設を標的とするとしながら、首都キエフや東部ハリコフなどの戦闘において、民間人も含めた多くの人々の命が奪われたという報道もあります。

まずは、この惨禍によって命を落とされたすべての方がたへ、深く哀悼の誠を奉げ、大切な家族や友人を失った方、自ら負傷された皆様に、衷心よりお見舞い申し上げます。

すべての生きとし生けるものにとって、命は等しく尊く、かけがえのないものであります。国の威厳や国益、主義主張など、いかなる理由によっても「殺してもよい命」や「殺されてもかまわない命」は存在しません。また、誰一人として平穏な生活が奪われ、家や財産を失い、居住する場所を追われることも許容されません。

曹洞宗は「自も他も傷つけない」という立場を貫き、戦争の遂行や暴力・破壊への誘因に結びつく思想や社会行動に同意しないという「非戦」の立場を堅持します。そして、過去に体験した戦争の悲惨さを繰り返さないための智慧と、いのちの尊さを自覚しあう慈悲によって、世界平和の実現が叶うと信じています。

その根本には、お釈迦さまのみ教えと、道元禅師、瑩山禅師のお示しを依りどころとして、争いを治めることができる寛容に満ちた社会を築くべく、まごころをもって努力することをお誓いするという精神があります。

仏教徒である私たちが、まず、人々の安寧のためになすべきことは、戦争の惨禍に巻き込まれ、混乱に陥れられ、平穏な生活を奪われた人びとのあらゆる痛みと苦悩に寄り添うことであります。さらに、一人ひとりが当事者として考え、行動する必要があります。

私たちは、世界中の誰しものが安らかに生きられる世界の実現を目指し、「竿頭の先に未来をひらく」ための実践を、不断に続けてまいります。

曹洞宗宗務庁

宗務総長 鬼生田俊英

三月十六日 福島県沖地震

地震・墓地被害についてのお願い

悪徳業者注意!!

本年三月十六日夜中の福島県沖地震のため多くの方が被災されたものと存じます。心よりお見舞い申し上げます。

震度六弱（福島市内）ということでありましたが、急な激しい揺れにより墓石等はそれなりに被害がありました。特に古い

墓石等においては、棹石（中心石）が転倒・横倒し等の被害、また外柵の割れ等の被害がありました。

平成二十三年大震災当時は当日並びに余震（特に四月十一日）の震度六、並びに昨年二月十三日に続く大被害でした。今回も前回と同等の衝撃でありました。現在震度五以上による被害は天災によるものであり、誰の責

任ともなりません。よって被害についてはそれぞれの皆様に補修をお願いいたします。特に隣の墓所等へも「まきこみ被害」があった場合はその方へ一報をお願いします。エチケットとして礼儀としてお願いいたします。

本当に「何事三度」の通りになつてしまいました。現在は良質の接着剤がありますので補修可能です。指定の石材店へは当院から連絡できますのでご一報ください。お繋ぎをいたします。

・石のかんの福島店
・茨木石材工業

長秀院住職 渡辺 祥文

長秀院檀信徒各位